

○10番（深谷秀峰議員） 10番深谷秀峰です。

通告に従い質問をさせていただきます。

まず初めに、公共施設等の適正な管理運営について、公共施設等再配置計画についてお尋ねをいたします。

総務省は平成26年4月、全国の自治体に対し、早急に公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって更新、統廃合、長寿命化など、総合的かつ計画的な管理を推進するための計画策定を通達いたしました。これを受け、本市では平成29年に「常陸太田市公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設等の将来にわたる維持管理費や更新・修繕費用など、公共施設白書で示された将来費用、40年間で1,087億円、そのうち約500億円の財源不足を計画的に縮減していく方針を提示いたしました。

その後、市民説明会を19地区で開催し、市の公共施設の現状や計画の基本方針を説明し、そこで出されたさまざまな意見を参考に、より具体的な「公共施設等再配置計画」が策定されたわけです。

この再配置計画では、地区ごとに施設類型別、再配置の期間区分別として具体的な説明を表記しており、市民からすればかなり関心度が高いものと思われるわけであります。

そこで、今回の各地区で行われた市民説明会の状況をまずお伺いしたいと思います。

1番目として、市民説明会の開催状況についてであります。前回の説明会では19地区で150名の参加者でしたが、今回はより多くの参加者があったと思われまます。地区ごとの参加状況はどうであったのか、また、その中でどのような意見が出されたのかお伺いをいたします。

次に、今後の進め方であります。本市では平成16年の合併前からそれぞれの自治体で多くの公共施設がつくられ、それをそのまま引き継いでるのが現状であります。明らかに将来の財政負担が大きくなることは目に見えております。しかし、地域の住民にとっては今まで身近にあった施設や、そこでの行政サービスがなくなってしまうことに、大きな不安と心配を感じるのは当然のことで、今後、より丁寧で、きめ細かい説明責任が求められていると思っておりますが、今後の進め方についてお尋ねをいたします。

次に、観光事業の振興であります。

主たる観光資源の現状と課題について、まずは西山荘、竜神大吊橋、里美牧場の入込客の状況についてお尋ねをいたします。

観光事業の振興については、昨年3月定例議会でも質問いたしました。さきに行われた議会報告会、意見交換会のテーマが、本年度は商業と観光の振興ということで、市民の方々からさまざまな意見が出されましたので、再度質問をいたします。

県内一の面積を誇る本市においては、市内各所に貴重な歴史遺産や、すばらしい自然環境を生かした数多くの観光資源があります。その中でも代表的なものとしては、西山荘、竜神大吊橋、里美牧場が挙げられます。

皆様ご承知のとおり西山荘は、水戸光圀が晩年過ごした隠居所であり、大日本史を編纂した場所として、本市を代表する歴史的建造物、2015年には茨城県で93年ぶりとなる国の史跡名

勝に指定されました。

また、竜神大吊橋は1994年に完成し、歩行者専用吊橋としては2006年まで日本一の長さを誇っていて、最盛期は100万人近くの観光客を集めました。最近では、渡橋者の数こそ減少はしているものの、高さ100メートルからのバンジージャンプが大きな話題となっております。

里美牧場は、敷地面積520ヘクタールを誇る関東最大級の牧場として、これまで酪農の振興を図るとともに、雄大な景色と高原のロケーションを生かし、宿泊施設やレストランを備えたプラトーさとみを中心として観光振興を図って参りました。また、牧場内には県の里美野外活動センターがあり、夏の間、多くのキャンプ客が訪れております。しかし、東日本大震災により、本市のこれら観光施設も大きな打撃を受け、風評被害はしばらくの間続いております。

そこで現在、これら本市を代表する3つの観光地の入込客の状況・推移について、どのようになっているのかお尋ねをいたします。

次に、入込客を増やすための方策についてお聞きいたします。

本市の観光事業の振興を図る上では核となる西山荘、竜神大吊橋、里美牧場を中心に、それぞれのエリアへの誘客の動線を作ることは大変重要となってきます。中でも、団体客や外国人の旅行者の誘客は今後さらに大切になってくると思われませんが、現在までの取り組み状況、PRや情報発信はどのように行われているのかお尋ねをいたします。

次に、キャンプ場施設等の状況について、まずはキャンプ場の利用状況についてお聞きいたします。1990年代は第1次キャンプブームといわれ、ピークの96年には1,580万人のキャンプ人口がありましたが、景気の低迷とともに2000年以降はその数は大きく減少してしまいました。しかし、現在、第2次キャンプブームと言われておまして、キャンプ人口は6年連続で増加しております。その大きな要因として挙げられるのが、SNSによる情報発信、ネット通販でのキャンプ用品の購入、アニメ、ゆるキャラの影響、グランピングの登場などが言われております。こうしたブームの中で、本市のキャンプ場は現在どの程度の利用者がおり、その推移はどうなっているのか、お伺いいたします。

次に、今後の整備等の方針についてお尋ねをいたします。

以前は、キャンプといえば夏のシーズンだったものが、オートキャンプの普及や、それに伴うキャンプ場施設の整備、キャンプ用品の高性能化などにより、今は年間を通してキャンプを楽しむスタイルに変わってきております。近隣でも、大子町のオートキャンプ場グリーンヴィラや北茨城市の花園オートキャンプ場は、整備が大変ゆきとどいており、毎年多くのキャンパーが訪れております。

そこで、本市の竜神ふるさと村や竜の里公園の今後の整備についてどのように考えているのか、お尋ねをいたします。

次に文化財保護活動について、文化財保護活動の取り組みについて、お尋ねをいたします。

まずは指定文化財等の保護活動の現状についてであります。常陸太田市は、戦国大名まで上り詰めた佐竹氏発祥の地であり、その後は、水戸徳川家ゆかりの地という歴史的背景もあり、多く

の歴史的資産を有しております。

現在、本市では、有形、無形、民俗、史蹟名勝、天然記念物など、合わせて172件の指定登録文化財がありますが、長い歴史を経てきたこれらの貴重な文化財を後世に引き継いでいくためには、当然のこと、適切な管理と修繕修復が必要になってまいります。

そこで、現在まで国の「文化財保護法」や「常陸太田市文化財保護条例」によって、本市の指定文化財等はどのような保護活動が行われてきたのか、お尋ねをいたします。

次に、指定文化財集中曝涼について、これまでの開催状況と成果についてお尋ねをいたします。曝涼の意味は、簡単に言えば虫干しということですが、その歴史は大変古く、古代中国までさかのぼり、日本に伝わったのは平安時代で、社寺や公家の年中行事として行われていたと言われております。特に社寺の所有する宝物虫ばらい行事との公開は、当時の市井の人々の楽しみであったと言われております。

皆様、ご承知のとおり、毎年秋に行われる奈良の風物詩、正倉院展は宝物曝涼期間中の公開展覽であることはよく知られております。本市が行っている指定文化財集中曝涼も、単に虫干しということ以上に、文化財を広く一般に公開することで、保護意識を高めていくという非常に重要な意味を持っております。そこでこれまでの開催状況と、この事業を進めてきた中で得られた成果についてお尋ねをいたします。

最後にJ T跡地の発掘調査について、これまでの発掘調査の状況についてお尋ねをいたします。

一昨年、日本たばこ産業株式会社より本市に無償譲渡されたこの跡地で、現在、外周道路改良工事に伴う発掘調査が行われております。文教民生委員会でも、これまで2回、発掘状況の視察を行ってまいりました。先日、視察した段階で説明を受けた太田城の堀跡と思われる威光は、その深さと幅からしても、当時の土木技術ではかなり大がかりな工事であったはずですが。この太田の地から身を起し、激しい戦国時代を駆け抜け、豊臣の6大将と言われるまでになった佐竹氏がいかに大大名であったことがうかがい知れる遺構と言えるのではないのでしょうか。

そこで、当初予定では発掘調査は今月で終了ということですが、現在までの調査状況についてお伺いをいたします。

以上、答弁をお願いいたします。

○成井小太郎議長 答弁を求めます。企画部長。

〔武藤範幸企画部長 登壇〕

○武藤範幸企画部長 公共施設等再配置計画についてのご質問にお答えいたします。

初めに、市民説明会の開催状況についてでございますが、本年5月12日から6月26日にかけて、市内19地区において公共施設等再配置計画に関する市民説明会を開催しましたところ、常陸太田地区では80名、金砂郷地区では66名、水府地区では50名、里美地区では73名、合計で269名の市民の皆様にご参加をいただいたところでございます。この市民説明会では、企画課より計画を策定いたしました背景や目的、また、説明会開催地区に係る施設の再配置内容などにつきましては、施設ごとに特に詳しく丁寧に説明をさせていただいたところでございます。

この説明会の中で、市民の皆様からいただきました主なご意見といたしましては、「市全体と

して公共施設の再配置に取り組むことは当然であり、進めていくべきである」との賛成意見を多数いただいた一方で、計画の中で、「地域や利用団体へ保有移行としている、特に地域コミュニティの活動の場となっている施設につきましては、地域性や施設が整備された経緯、背景などを踏まえ対応してほしい」とか「地域住民の新たな負担となるものはいかなるものか」とのご意見。また、「施設の削減ばかりでなく、施設使用料の値上げであるとか、地域や住民ニーズに即した事業提供をする、民間事業者等への施設貸し出しなど、市の収入を増やすことも検討すべきである」との意見をいただいたところでございます。

市といたしましては、この市民説明会后、市民の皆様からいただいたご意見について、企画課より市各施設所管課へ情報提供を行うとともに、政策推進会議の場において報告をし、庁内での情報共有を図り、現在は、実際に施設を利用する市民や地域の皆様との協議が必要な施設について、施設所管課が施設ごとの利用状況や管理運営コストなどを示しながら、再配置の方針を十分に説明し、随時協議をさせていただいているところでございます。

次に、今後の進め方についてでございますが、短期的には耐用期限を2020年3月としている施設を中心に、計画の実行に移るとともに、引き続き市民や地域の皆様と協議が必要な施設につきましては、施設所管課において慎重かつ丁寧な協議を進めさせていただき、庁内の課長級で組織する推進委員会、及び部長級で組織する推進本部会議において、定期的に計画の進行状況の確認及び検証を行い、計画全体の着実な進行管理をしてまいりたいと考えてございます。また、それら計画の進行状況等につきましては、随時、必要に応じて市議会に対しましても報告をしてまいりたいと考えてございます。

中長期的な取り組みといたしましては、再配置計画に示したように、公共施設等のマネジメントは長期にわたる取り組みであることから、将来の人口動向や歳入歳出の状況、国の制度変更などの社会経済情勢の変化に対応するため、計画の見直しをおおむね5年ごとに実施してまいりたいと考えています。

○成井小太郎議長 答弁を求めます。商工観光部長。

〔小瀧孝男商工観光部長 登壇〕

○小瀧孝男商工観光部長 観光事業の振興について、4点のご質問にお答えします。

まず1点目の西山荘、竜神大吊橋、里美牧場の入込客の状況についてですが、各施設の各3年の入込状況を申し上げますと、西山御殿、いわゆる西山荘の入場者数は平成28年度3万4,244人、平成29年度2万8,529人、平成30年度2万3,400人でございまして、年々減少している状況でございます。竜神大吊橋の渡橋者数は、平成28年度25万2,200人、平成29年度24万9,198人、平成30年度24万9,723人と近年横ばい状態が続いております。里美牧場内の入込み状況ですが、プラトーさとみと茨城県立里美野外活動センターの利用者数で申し上げますと、プラトーさとみが、平成28年度6,925人、平成29年度6,129人、平成30年度2,326人、で、里美野外活動センターが、平成28年度1万471人、平成29年度1万1,935人、平成30年度1万2,160人でございました。プラトーさとみの昨年度の利用者数は、毎年利用いただいているスポーツ少年団の団員数減や団体リピーター等へのPR活動不足

により、前年度を大きく下回る利用者数となりました。

次に、2点目の入込客を増やすための方策についてでございますが、国内向けの誘客としましては、平成27年度より、市外の観光客を対象とした市内宿泊施設やレジャー施設及び飲食店等で使用できるプレミアム付旅行券をインターネットで販売しておりますが、今年は7月に販売したところ、3日間で完売となるなど、利用者から好評を得ております。また平成28年度より、団体バスツアーの旅行費用の一部を助成する団体旅行誘致促進助成事業に取り組んでおります。平成30年度の助成申込件数は、前年度比35件増の105件でございますが、3,492人のツアー参加者が本市を訪問されております。本年度の申し込み状況ですが、8月30日現在で161件、6,977人のツアー申し込みをいただいている状況でございます。

国外向けとしましては、訪日外国人旅行者の誘客に向けて平成30年度からインバウンド推進事業に取り組んでおります。茨城空港へ定期便が就航している中国、韓国、台湾をターゲットとし、県、国際観光課を初めとする関係部局と連携を図った誘客推進に取り組みまして、本市への平成30年度インバウンド旅行者は、前年度1,859人上回る2,732人となっております。

今年度は、台湾のブロガー2名を招聘し、また台湾の旅行テレビ番組を招聘するなど、本市への誘客に向けた観光情報についてマスメディアやFacebook、ブログなどのSNSによる発信を図るとともに、茨城空港に就航している航空会社や旅行会社と連携した外国人向けプレミアム付トラベルチケットやシティパスポート券を新たに発行するなど、プロモーション活動に取り組んでいるところでございます。

また、本市では農村民泊による教育旅行に取り組んでおり、平成28年度は5校から688人、平成29年度は8校から1,016人、平成30年度は7校から720人の小中学生を受け入れております。今後につきましても、民泊受け入れ協議会による、受け入れ体制の整備を図り、県南地域や首都圏にある教育委員会や学校等へのPRと誘致促進を図ってまいります。

さらにはプラトーさとみ、かなさ笑楽校、西山研修所等の市内宿泊施設を含めた市内観光のPRについて、当市広報広聴課と連携した戦略的な広報PRに取り組み、誘客拡大を図っているところでございます。

なお、各観光施設において、お客様の意見やニーズを的確に把握するため、アンケート調査を実施しており、今後の施設運営や施設改善等を図る際に反映させてまいりたいと考えております。

次に、キャンプ場施設等の状況についての2点のご質問にお答えいたします。

1点目のキャンプ場の利用状況についてでございますが、竜神ふるさと村の利用者数は、平成28年度3,339人、平成29年度3,309人、平成30年度3,423人ございました。竜の里公園の利用者数は、平成28年度1,566人、平成29年度2,017人、平成30年度2,556人で、5月のゴールデンウィークや秋の紅葉シーズンの利用者増により年々増えている状況でございます。

2点目の、今後の整備等の方針についてでございますが、竜神ふるさと村については、現在、奥久慈グリーンライン林道整備が令和5年の完成を目途に進められており、その進捗に合わせまして、竜神ふるさと村へのアクセス道路の整備を優先して取り組みたいと考えております。

なお、竜神大吊橋と竜神ふるさと村を核とした竜神峡エリアにつきましては、回遊性の向上による誘客が図られよう、今後、総合的な検討をしてみたいと考えております。

また、日本オートキャンプ協会の「オートキャンプ白書2019」によりますと、2018年は秋から冬にかけてのキャンプ需要が伸び、オートキャンプ参加人口は2017年より10万人増の850万人となるなど、6年連続で前年を上回り、キャンプ需要が高まっている状況でありますため、竜の里公園につきましては、閉鎖期間の見直しなどを含めた今後の誘客拡大について、施設管理運営を行っている水府振興公社と連携を図ってみたいと考えております。

○成井小太郎議長 教育部長。

〔生天目忍教育部長 登壇〕

○生天目忍教育部長 文化財保護活動についてのご質問にお答えいたします。

初めに、文化財保護活動の取り組みについて、指定文化財等の保護活動の現状についてでございますが、国及び県では「文化財保護法」により、歴史上または学術上価値が高く、重要なものを国・県指定文化財として保護しております。

また、本市では市文化財保護条例により、市にとって重要と認めるものを市指定文化財として保護しております。現在、本市には、国指定文化財が7件、国登録文化財が17件、県指定文化財が41件、市指定文化財が94件、みどりの文化財が13件で、合計172件の指定または登録文化財がございます。これらの国・県指定の文化財におきましては、県の巡視員が定期的に現地確認等を行っており、市指定の文化財におきましては、太田地区4名、金砂郷地区2名、水府地区2名、里美地区3名の11名の文化財保護協力員が年2回巡視を行い、確認内容等を文化課へ報告しております。

また、天然記念物の樹木につきましては、毎年樹木医の方に樹勢等の確認をお願いし、確認した内容や所見等を所有者の方に伝え、樹木の保全に努めております。

指定文化財の保護保全事業といたしましては、国指定史跡及び名勝、西山御殿跡保存整備事業、国指定史跡水戸徳川家墓所保存整備事業、常陸太田市指定文化財整備事業、常陸太田市指定文化財管理等事業に取り組んでおります。また、大里町の来迎院阿弥陀堂本堂の屋根葺替工事や、増井町正宗寺文化財収蔵庫屋根修復工事及び正宗寺総門瓦修繕工事等を行うとともに、天然記念物樹勢回復と致しましては、大中町の泉福寺のしだれ桜樹勢回復など取り組み、指定文化財の保護、保全、整備に努めております。

続きまして、指定文化財集中曝涼について、これまでの開催状況と成果についてでございますが、指定文化財集中曝涼につきましては、文化財をよい状態で保存していくための虫干しとして行なっております。同時に、多くの方にふだんは目にすることのできない文化財を公開することによって、これらを身近に感じながら、ふるさと常陸太田を知り、地域の宝である文化財を守っていくという意識を高めていくことを目的としまして、平成19年度より毎年10月に開催し、本年度で13回目を迎えます。

来場者数につきましては、平成26年度は5,799名、平成27年度は7,003名、平成28年度は6,193名、平成29年度は3,109名、平成30年度は8,491名と、天候の影響によ

り減少した年もありましたが、年々上昇傾向で推移をしております。公開箇所につきましても、平成26年度、27年度は15カ所でしたが、平成28年度は18カ所、平成29年度、30年度は19カ所となっております。

また、集中曝涼では、茨城大学や常盤大学の学生ボランティアによる、公開場所での来訪者への文化財の解説等を行っていただいております。大学生ボランティアの人数につきましては、平成26年度は69名、平成27年度は94名、平成28年度は118名、平成29年度は111名、平成30年度は75名の協力をいただいております。ご協力をいただきました大学生は、大学や大学院を卒業後に県や市町村等の文化財関係の仕事につかれる方も多く、現在も本市とかかわりを持っていただいております。

また、公開場所でも、地域の方々が来訪された皆様へおもてなしといたしまして、各種物販や飲食の提供を行っているところもございます。来迎院では各種屋台の出店、久昌寺ではフリーマーケットの開催、青蓮寺では茶会や地元産物の販売など、多くの公開場所でおもてなしによる交流が図られております。

なお、集中曝涼で行いましたアンケート調査の主な意見といたしましては「大学生の説明がとてもわかりやすく親切でした」「このような機会があり、歴史に触れられて嬉しく思います」「長く続けてほしいです。とても参考になり、文化財を間近に見られてうれしかったです」等々の意見を多数いただいております。

続きまして、JT跡地の発掘調査について。これまでの発掘調査の状況についてでございますが、JT跡地外周道路改良工事に伴う発掘調査につきましては、本年6月15日から9月30日までの期間により発掘調査を行っております。

現在までに確認されました遺構につきましては、太田城に関すると思われる中世時代の堀跡が3条、縄文時代から平安時代のものと思われる竪穴式建物跡が38軒、浅い井戸が2基、人が穴を掘った跡である土坑が12基、古墳時代から中世のものと思われる、柱を立てるための柱穴15基などが確認されております。また、遺物につきましては、縄文時代から中世までの土器では、食事用の器として使用する坏、高台付き坏、椀や皿、食べ物を煮炊きするかめ、食べ物の貯蔵等に使用するつぼなどが確認されております。縄文時代から平安時代の石器では、食料などをすりつぶしたり、砕いたりするためのたたき石やすり石、供養塔として建てられた石の宝篋印塔などが確認されております。さらに金属製品では、12世紀ころの中国が宋の時代の貨幣である北宋銭などが確認されております。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

〔10番 深谷秀峰議員 質問者席へ〕

○10番（深谷秀峰議員） ご答弁ありがとうございました。それでは、それぞれについて再質問をさせていただきます。

まず初めに、公共施設等の再配置計画について、市民説明会の開催状況についてお尋ねをいたします。

ご答弁にあったとおり、一昨年の市民説明会は19地区で150名。今回、より具体的な内容

で説明をした中で269名ということでありましたが、先ほど、各地区の参加人数を示されたんですけれども、大きな人数の差はないように見受けられます。ただ、その問題は地区ごとによって関心度に大きな差が、もしかするとあるのではないかなと思いますけれども、その点はどのように捉えましたか。

○成井小太郎議長 企画部長。

○武藤範幸企画部長 まず全体的に見まして、平成29年3月の公共施設等総合管理計画を策定した際と比較しますと、市民の皆様の関心度は非常に高いというふうに感じました。特に先ほどもご答弁いたしましたように、計画の中で短期的な対応として地域や利用団体へ保有移行としている地域コミュニティの活動の場となっている施設がたくさんある地区におきましては、市民説明会で多くの意見が出されたことから、他の地区と比較しますと、特に関心度は高かったというふうに捉えているところでございます。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

○10番（深谷秀峰議員） ただいま答弁の中にあつた、かなり関心度が高い地区がおそらく里美地区だと思います。私も地元の説明会に参加したんですけれども、いろんな意見が出ました。私が感じた中で、非常に今後取り組んでいくのに難しいんじゃないかなと率直に感じたんですが、里美地区での意見、出た意見というのは、やはり人口が減っている中で世帯数も減って、コミュニティセンターを町会で維持管理してくれと言うことに大きな不安と心配があるんだということだと思うんですけども、今後どのように里美地区については検討していくのかお聞きしたいと思います。

○成井小太郎議長 企画部長。

○武藤範幸企画部長 里美地区に関してでございますが、今回の市民説明会後も、まず里美地区の町会長さんたちからの要望がありまして、7月10日に里美地区町会長協議会の場が開催されるので、その場の中で再度説明をいただけないかと、協議できないかという要望があり、施設所管課である生涯学習課と企画課の職員、それと里美地区の町会長さんたちとの間で、このことに関する意見交換会を行いました。

その際、里美地区のコミュニティセンターについては、施設ごとに地区年数や整備された経緯などが異なるため、今後は町会ごとに個別に協議を行ってほしいとの意見がございましたので、現在施設所管課である生涯学習課が中心となり、町会ごとに協議を行う予定で準備を進めているところでございます。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

○10番（深谷秀峰議員） 里美のコミュニティセンターは、合併前、公民館の分館としての位置づけで、当時は当然必要性があつて運営されてきたわけです。今回の説明会で、町会で維持管理と言われたことに里美の皆さんは非常に戸惑っていると思うんですけれども、今後、各町会ごとに説明していくということなのですが、1つ大きな問題点、私が感じるものに、各町会にあるコミュニティセンターの建築年数の差が物すごいんですね。もう古いものはすぐにでも撤去しなくちゃならないような、そこまでひどくはないかもしれないですけど、目前に修繕費という大

きな負担が見えるんですよ。そういう不安を今度の町会ごとの説明でどう解消していくのか気になるので、ご答弁願いたいと思います。

○成井小太郎議長 企画部長。

○武藤範幸企画部長 施設所管課，生涯学習課，教育委員会生涯学習課となっておりますので，そのことについても今後の対応について，きちんとその施設ごとに説明をしていこう，協議をしていこうということで調整をしているところでございます。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

○10番（深谷秀峰議員） ぜひご丁寧な説明をお願いしたいと思います。

続いて，観光事業の振興について，主たる観光資源の現状と課題について質問したいと思います。

先ほど説明のあった本市の主たる観光資源3つ，その中の西山荘についてまずお尋ねをいたします。

西山荘は平成27年に国指定の史跡名勝になって，統計上は一時来場者が増えましたよね。しかしその後，また減少傾向になってしまったんですけれども，それについて，どういうふうに分析して，今後対応していくのか，お尋ねをしたいと思います。

○成井小太郎議長 商工観光部長。

○小瀧孝男商工観光部長 2回目のご質問にお答えします。

西山荘の来場者数は，震災後，年々減少しておりまして，その要因としましては，旅行者の見るといふものから，体験するということのような，その嗜好が変化してきていることが1つあります。さらには，42年間続いたTBSテレビでの「水戸黄門」の放送が平成23年度をもって終了したことも要因の一つと捉えております。

また，今，議員からお話があったように，平成27年度は指定史跡及び名勝に指定されまして，4万5,150人と回復傾向が見られましたけれども，翌年平成28年度からはまた減少が続いています。1つには，平成28年度10月の入場料金の値上げ等も影響があったのかなとは捉えております。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

○10番（深谷秀峰議員） 西山荘，確かに毎週テレビで「水戸黄門」をやっていたころは全国的な知名度があったわけですよね。それが打ち切りになって，今も大河ドラマはどうのこうのという動きもありますけれども，やはりその影響はあると思います。

ただ，長く，この常陸太田市の顔といいますか，我々も議会で常任委員会の所管事務調査で行って，向こうで委員長が挨拶するときには，必ず，水戸光圀が隠居した西山荘のある街ですというのを必ず入れます。ですから，もう一度，この西山荘に人が多く訪れるような，そして隣接する桃源にも多くの人が来るような，そういう動客の優先をぜひとも近くにある太田の道の駅から作ってほしい。それを要望したいと思います。

次に，プラトーさとみの件についてお尋ねをいたします。今回あえて，里美牧場内の施設，県立野外活動センターの利用者の数も出してもらいました。

見てわかるとおり、プラトーさとみは、ここ3年間見ても減少傾向。ところが野外活動センターは年々増えている。確かに野外活動センターは利用料金が極端に安いというのがありますけども、やはりそこは取り組みの差だと思えます。1番大きなのは。県立野外活動センターは、今、民間の事業者が指定管理を受け、やっていますから、いろんなアイデアを出して、アイデアがすごいと思います。プラトーさとみについては、今、里美の振興公社が指定管理を受けて行なっていますけども、市として、やはりもうちょっと色々アイデアを出していく必要があるんじゃないかなと思いますけども、その点についてお伺いします。

○成井小太郎議長 商工観光部長。

○小瀧孝男商工観光部長 プラトーさとみの、誘客促進に向けた対策でございますけども、市としましては、現在、星空観測の体験プログラム等の旅行企画の造成や、PRポスターチラシの作成、そして、リピーター等への誘客活動など、市観光物産協会と連携を図りまして、ふるさと振興公社の支援を測っております。また、振興公社の職員の育成を含めた支援体制を今後も図ってまいりたいと考えております。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

○10番（深谷秀峰議員） プラトーさとみに隣接する形で、ローラー滑り台があるんですよ。前回は私の処分についてどう考えているのか質問しましたが、実は昨日夕方見に行きました。プラトーに上がっていく途中で、大きなイノシシー頭に出会ったんですけども、その先にローラー滑り台があったんですよ。もう草に埋もれて全く見えない状態。この処分については、今後、どう検討していくのかお尋ねをいたします。

○成井小太郎議長 商工観光部長。

○小瀧孝男商工観光部長 平成5年に建設された滑り台でございますけども、ただいま解体撤去の見積もりをとるなど、撤去に向けた準備を進めているところでございます。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

○10番（深谷秀峰議員） もう1点お尋ねをしたいと思います。

里美牧場については、県酪連が撤退して、その後、本年4月に小里財産区が市に移管されました。県酪連が撤退した時点で、もしかすると牧場としての景観維持というのは非常に難しい状況になってきたのかもしれない。ただ、あの素晴らしい高原の景観、そして、あそこから眺望できる那須連山、富士山。そうしたものは、茨城県に他にないんですよ。ですから、そうした素晴らしい景観を、今後どういうふう維持していくのかお尋ねをしたいと思います。

○成井小太郎議長 商工観光部長。

○小瀧孝男商工観光部長 牧場としての景観維持についてでございますが、本年4月1日付で小里財産区から市へ財産が移管されまして、移管後、自然環境の保全や山林の適正管理等について、市関係課による現状認識を図ったところでございますが、今後も里美牧場の景観維持につきましては、引き続き関係部署と連携を図ってまいりたいと考えております。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

○10番（深谷秀峰議員） ぜひともよろしく願いいたします。

それでは、3点目の文化財の保護活動についてお尋ねをしたいと思います。

2点目の、市で行っている集中曝涼の件なのですが、常陸太田市が県内でも率先してこの集中曝涼という行事を始めた影響からか、近隣市町村でもだんだんそういう取り組みが見えるようになってきました。

今まで文化財というのはある特定の人、興味がある人しか目にしないということがあったんですけど、この集中曝涼を契機に、広く一般の人たちでも、文化財に対する意識は高まったのかなと私は非常に評価しています。今後これを続けていく中で、もしかすると、もっと地域の人が文化財に興味を持ってくれるんじゃないかなという気がしてならないのですが、もっと地域の人が、今も協力しているけれども、もうちょっと広げられるようになればいいなと思うんですが、何かお考えありますか。

○成井小太郎議長 教育部長。

○生天目忍教育部長 ただいまのご質問にお答えいたします。

現在も集中曝涼の多くの公開場所で地域のおもてなしをしていただいておりますが、地域にある文化財に愛着や理解をさらに深めていただくために、周知広報等に努めるとともに、エコミュージアム活動に積極的に取り組んでいただいている地域の方々など、今後も多くの方々にご協力をいただけるよう取り組んで参りたいと考えています。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

○10番（深谷秀峰議員） ぜひともこの素晴らしい集中曝涼という行事を今後も地域の皆さんと一緒に盛り上げていてもらいたいと思います。

それでは最後にJ T跡地の発掘調査についてお尋ねをいたします。答弁にあったように太田城の堀跡が発掘されました。前回、文教民生委員会で視察した私の感想は、もしかすると、これはもう市だけじゃなくて、県とか国レベルまで話が行ってもいいぐらいの貴重なものじゃないかなと、文化財保護審議員の経験者の私は思いました。

ただ、やはりもっと専門家にきちんと判断をしてもらうことが必要なんじゃないかと思うんです。埋蔵文化財というのは非常に取り扱いが難しい。掘ったはいいいけども土をかぶせてしまえば、ふたをしてしまえば、もう誰の目に触れないんです。ですから、今の段階できちんとした専門家に判断をしてもらう必要があると思います。

そこで、最後に教育長にお尋ねしたいんですが、今回確認された太田城の堀跡については、本当に佐竹氏に関する貴重な文化財と考えられます。教育委員会としては、今回はあくまでも外周道路改良工事に伴う調査だと思ってしまうんですけど、ぜひとも県の教育庁文化課や埋蔵文化事業団などと連携して、堀跡について追加調査が必要と認められるならば、ぜひとも調査のための調査をお願いしたいと思うんですが、ご所見をお伺いいたします。

○成井小太郎議長 答弁を求めます。教育長。

○石川八千代教育長 ただいま議員発言のとおり、今回行っているJ T跡地外周道路改良工事に伴う発掘調査につきましては、「文化財保護法」による埋蔵文化財包蔵地における道路改良工事のための発掘調査として実施しております。現在までに発見された堀跡や住居跡についての歴史

的価値につきましては、現在、まだ発掘調査を行っている途中でございますので、今後調査が終了し、確認された全ての遺構及び遺物につきましては、市の文化財保護審議会委員や上部機関等の専門的な立場の方々からご意見等いただきながら、総合的にその価値を見きわめてまいりたいと考えているところでございます。また、J T跡地については、今後の利活用の状況により必要となった場合の調査については取り組んで参ります。

○成井小太郎議長 深谷秀峰議員。

○10番（深谷秀峰議員） 質問を終わります。ありがとうございました。